

OPINION 添乗専門職の確立に向けて

私がカメラマンとして19歳で入社した株式会社キンキ写真の代表取締役役に就任したのは1978年28歳の時でした。1985年、株式会社ティーシーエイに社名変更後、翌年社団法人日本添乗サービス協会に入会をし、はや45年が経過しようとしています。

添乗派遣事業のスタート

添乗派遣事業が正式に発足する前の旅行業界は、社員添乗・旅行会社専属添乗員・学生アルバイト(大半が男性)が主流でしたが、高度経済成長と共に旅行ブームが到来。自社添乗だけでは消化できなくなり、関係機関のドライブインや旅館の従業員までが駆り出され、本来集合写真撮影のために同行していた当社のカメラマンも添乗まがいの仕事も引き受けていました。

1983年の旅行業法の改正により旅程管理業務を行う者(旅程管理主任者)が法で位置づけられ、その後、1986年に労働者派遣法が施行され添乗専門職を派遣する事業者団体として協会も法人格を得、社団法人日本添乗サービス協会が発足しました。

添乗業界成長期

1986年から5～6年間はTCSA会員会社は成長路線をまっしぐらに突き進んだ時代でありました。

またこの頃から2000年にかけて海外旅行ブームが起り500万人だった海外旅行者が1700万人に増加し海外旅行添乗員の需要が爆発的に増えた時期でもありました。

この間TCSAは業界発展・添乗員の地位向上の為にたゆまぬ努力をし、1988年にTCSAは旅程管理研修の指定機関としてJATA・ANTA・大手旅行会社と並び多くの添乗専門スタッフを業界に輩出してきました。

添乗業界成熟期

以後2002年頃まで手配旅行(遺族会・婦人会・老人会・農協・招待旅行・慰安旅行等)・修学旅行・主催旅行・海外旅行と年

間を通じて添乗需要があり、大手の旅行会社は系列の添乗員派遣会社をこぞって設立しました。TCSA会員会社の人材確保においても一回の募集で100人位の応募があり男性添乗員より女性添乗員の比率が多くなり、新規の添乗派遣会社が多く誕生しました。またエアーで行く北海道・沖縄・九州等は現地受けに大半が変わっていきました。このころから旅行業界で派遣添乗が確立されるとともに派遣先と派遣元のあいだに微妙な考えのずれが起こりだした時期でもあります。

試行錯誤の10年

その後旅行業界が大きく変わりだし、手配旅行が減り主催旅行が主流になり、月22～23日あった添乗が13～18日に減り経験を積んだ男性の添乗員や自活している添乗員がやめていきました。

補充の為に募集で応募者がしだいに50人・30人・10人と減り、また年々添乗員の定着率も悪くなり、募集から1年未満でやめる人が70%以上になり、添乗員にも会社にも厳しい時代になってきています。

しかしここ1～2年は日本の経済も徐々に良くなりつつあり業界においても少し明るい兆しが見え出しております。

添乗員は世界一のエンターテイナーであり、お客様を未知の世界へご案内し夢と感動を与えるプロデューサーであります。どうかこれからも日々研鑽を怠らずに仕事に従事していただきたいと思います。

45年間を振り返り、私は諦めず投げ出さずにこの業界で働いて良かったと思っております。

旅行業界関係者全ての皆様に

感謝



TCSA理事
(株)ティーシーエイ会長

四宮 美佐雄氏

CONTENTS

OPINION ————— 1

添乗専門職の確立に向けて

(株)ティーシーエイ 会長 四宮 美佐雄氏

TOP INTERVIEW ————— 4

成田国際空港株式会社 代表取締役社長

夏目 誠氏をお訪ねして

TCSA REPORT ————— 7

添乗あれこれ～添乗の現場から～ 第4回

2000日添乗員のコソコソ奮闘記 ㊦

特集 ————— 2

バス車内における添乗員の安全管理の徹底を!

TCSA REPORT ————— 6

「ツアーコンダクターオブザイヤー2013」受賞者決定

TCSAだより ————— 8

大臣表彰 運輸局長表彰

添乗員能力資格認定試験 会員動向 編集後記

特集! バス車内における 添乗員の安全管理の徹底を!

道交法の改正に伴う法令遵守の徹底を

平成20年6月1日に施行された改正道路交通法では、事故発生時の被害軽減を図るため、シートベルトの着用が添乗員を含むすべての乗客に義務化され、高速道路走行中に違反が確認された場合は運転者に対し行政処分が課せられることにな

りました。

TCSAでは、このことを受け、複数回にわたり募集型企画旅行を実施している主要旅行会社に対して添乗員の安全管理に係る依頼文書を送付してきました(下記)。

旅行会社 各位

平成 24 年 8 月 3 日
(社)日本添乗サービス協会
添乗業務改善委員会

バス車内における添乗員の安全管理について (ご依頼)

関越自動車道での事故を受けて、日本旅行業協会・全国旅行業協会から「高速ツアーバスに関する安全指針」が送られました。法令等を遵守しともに責任感をもって安全なサービスを提供することを目的としたものです。

これらを受けて、当協会の添乗業務改善委員会では、派遣添乗員の労働実態調査や派遣元の地区連絡会等から、標記に関する改善を強く求められております。

昨年度、当協会から(平成 23 年 11 月 28 日発信)「添乗業務に係る改善について」でも同様のお願いを致しましたが、添乗員の派遣先旅行会社の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

1. バス添乗中の正シートの確保と車内物品販売の制限

道路交通法改正に伴い、シートベルト着用の義務づけがされています。添乗員の安全のため正シートの確保をお願いします。

また、バス走行中での車内物品販売についても、安全確保のため停車中や休憩時間に可能な範囲で且つ最小限に止めて頂き、添乗指示書などに具体的に販売集金業務が、可能な場所の明示・指示をお願いします。

以下につきましては、添乗員や派遣元から具体的実態報告です。

- * オプション販売の多いツアーでは、添乗員がバス車内で注文・集金業務をせざるを得ない状況が発生しております。
- * 出発当日の昼食のオプションは朝 9:00 位までの注文連絡が一般的で注文・集金・発注するのが現状のようです。
- * オプション以外でも自社で取扱う「グッズ」販売の指示もあるようです。

以上

依頼書面では、安全管理配慮の観点から、「バス座席の添乗員への正シートの確保」、「バス走行中での車内販売等の制限」の2点について協力の依頼をしました。

「バス添乗の場合の添乗員への正シートの確保」に関しては、改正道交法によるシートベルト着用及びお弁当の積み込みの際のスペースや車中における添乗関係書類の確認、ドライバーとの打合せ等の業務上の必要性からドライバーの後部座席の確保をお願いしています。

また、「バス走行中での物品販売等の制限」に関しては、昼食のオプション等は、最初の休憩のサービスエリアで注文連絡をしないと間に合わないことから、添乗員がバス走行中に立って注文・集金業務を行わなければならない状況です。可能な限り事前集約し、且つ最小限に留めていただくようお願いしています。

徹底されていない実態が…

依頼文書を各旅行会社に送付した後、全国8地域でTCSA会員に実態をヒアリングしたところ、「添乗員の正シート確保」については、一部改善は見られたものの、集客状況及びお客様の構成人数や男女比によって添乗員は補助席に座るケースが未だまだあることが判明しました。

また、添乗員が正シートに座ることでお客様から「添乗員は補助席ではないの?」と言われ、アンケートにもマイナス評価として書かれる実態があることから補助席に座るケースもあると報告されています。

また、「バス走行中の物品販売等の制限」については、一時よりは販売品目は減ったものの、走行中に注文・集金をしなければならないケースが多々あり、その場所等について旅行会社からは明確な指示は出ていないという実態が判明しました。「走行中、添乗員は必ず着座し、トイレ休憩等に注文・集金をする」と指示が出ていても、実際は行程が忙しく、トイレ休憩に注文・集金することは困難なため、車内で対応せざるを得ないとのことでした。

添乗員がケガをした事例も

TCSA会員からの報告の中に、車内販売の注文と集金を行うため、添乗員が席を立って行っていたところ、バスが急ブレーキで停車した際、添乗員は転んでケガをしたという報告も複数あがっています。

幸い添乗業務は継続できたことからツアー自体に大きな支障を来すことはなかったものの、このことで大きな事故・トラブルになった場合、重大な責任問題に発展することも充分考えられます。

添乗員も含めたツアー全体の安全管理を再徹底

TCSA業務改善委員会では今後の対応を検討しているところですが、各旅行会社の皆様に下記事項を再徹底いただきたいと考えています。

既に徹底されている旅行会社もありますが、改善が必要な派遣先旅行会社には個別に要請依頼を予定しています。

バス座席の添乗員への正シートの確保に関して

- ①安全管理及びコンプライアンスの観点からバスツアーにおける添乗員に対し正シートを確保。
- ②添乗員の正シートは業務上の観点から可能な限り2席確保を。
- ③添乗員の正シート利用に際してお客様に理解してもらうため、募集パンフレットや旅のしおりにその旨明記を要請。

バス走行中での車内物品販売等への配慮に関して

- ①法令遵守の観点からバス走行中に席を立つことのないよう明確な指示をお願いしたい。
- ②オプションは可能な限り事前集約し、車内物品販売は必要最小限に止めていただきたい。
- ③やむを得ずオプション等の注文・集金業務を行う場合は、バス走行中に行わなくて済むよう、明確な指示をしてもらうべく、「添乗指示書」等に当該業務が可能な場所の明示・指示をお願いしたい。

最後に…

道交法の改正の目的でもある「交通事故発生時における乗員の被害軽減」は他人事ではなく、万が一事故が起こってしまった際、旅行会社・添乗員それぞれが安全配慮を行っていたかどうか重要なポイントとなってきます。

添乗サービス業界にとって大切なパートナーである旅行会社と一体となって事態改善に向け、コンプライアンスの徹底に

取り組むことでツアー全体の価値がより一層高まることを願っています。

国交省もツアーバスの在り方について新たなルールを整備している今日、TCSAはバス添乗の改善に向け努力しています。

成田国際空港株式会社

代表取締役社長 夏目 誠氏

日本の表玄関、成田国際空港の代表取締役社長であられる夏目誠社長をお訪ねしました。



三橋専務理事(以下 三橋) 海外から日本の空港に戻って参りますとほっと致しますが、その成田空港の将来ビジョンについてまずうかがわせていただけますか。

夏目社長(以下 夏目) アジアの急速な経済成長を背景に、アジア圏ではソウルの仁川空港やシンガポールのチャンギ空港などが新たにターミナルを建設するなど、巨大な国際拠点空港整備が進められ、空港間競争はますます激化してきています

日本国内においても2014年の夏ダイヤから羽田空港の国際線二次増枠が予定されています。国際線の昼間発着枠が3万回増加し、昼間時間帯が計6万回になり深夜早朝枠を含めてトータル9万回となり、首都圏空港を取り巻く環境も大きく変化してきている状況です。

選ばれる空港を目指して

夏目 成田空港では、本年3月末に空港容量が27万回に拡大しました。また、現在20カ国3地域とオープンスカイの合意をしています。オープンスカイによって航空会社は乗り入れる空港を自由に選べますが、空港からすると航空会社に“選ばれる”時代となってきたということです。空港にとって航空会社から評価され、選ばれれば発展して行きますが選ばれなければ飛行機は飛んで来ない訳で衰退していってしまいます。非常に厳しい自由競争の時代に空港も入ってきています。航空会社から“選ばれる”ためにあらゆるニーズに対して適切に対応することが益々大々になっています。あえて“選ばれる”という言葉を使いましたのは航空会社を始めとして“お客様から選ばれないと存立出来ない”という事を従業員皆に訴えたいという思いからです。1978年に開港しちょうど今年で35周年になる成田空港としては、開港以来最大の変化ともいえるオープンスカイを大きなチャンスと捉えており、迅速かつ柔軟かつグローバルな戦略を持ってこれらの競争に勝ち抜いて行かなくてはと考えています。

三橋 LCCについてはいかがお考えでいらっしゃいますか。

夏目 LCCは世界の航空市場で急成長しており、欧米を含む多くの地域でそのシェアは全体の3～5割を占めるに至っていますが日本も含まれる北東アジアにおいてはまだ1割に満たない状況です。しかし、これから日本も欧米並みにLCCが成長発展していくと言われています。現在、成田空港には、昨年夏に成田空港を拠点として就航した本邦LCC 2社を含め、計7社のLCCが就航しております。2013年度においては、国際線旅客便に占めるLCCの割合は7%程度、国内線旅客便に占める割合は36%程度になると見込んでいます。また、総発着回数に占めるLCCの割合は12%程度になると見込んでいますが、2015年度には約20%程度に拡大すると予測しています。

このような中、成田空港ではLCC拠点化に向け、2014年度末の完成を目指して、LCC専用ターミナルの整備を進めるとともに、積極的な路線誘致に取り組んでまいります。また、LCCは早朝出発便が多いため、駐車場料金の早朝割引を行うなど、LCCをご利用になるお客様対応のサービス充実に努めてまいります。

三橋 利用者としてそれは朗報ですが、車以外のアクセスについては…

都心からのアクセスも大幅に改善

夏目 空港はどうしても都心から離れた所に立地せざるをえません。そのため、都心とのアクセス、交通の便は極めて重要であり、特に鉄道アクセスとバスアクセスが重要だと考えております。鉄道アクセスは2010年7月に成田スカイアクセスが開通し、



成田から日暮里間が最短36分で繋がりました。なお、6月14日に閣議決定された「日本再興戦略」では、2030年までに都心と成田空港、羽田空港を結ぶ直結線の整備に向けた検討を進めることが示されました。都心直結線が整備されると、成田・羽田両空港の一体活用や成田空港と都心の利便性が更に向上し、首都圏の国際競争力強化に繋がると、大きな期待を寄せています。一方、バスアクセスですが、昨年夏の本邦LCC就航に合わせ、成田空港から東京駅間で京成バス等が運行する「東京シャトル」、平和交通等が運行する「THEアクセス成田」という格安バスの新規参入が実現、運賃面でも選択肢が拡大し、バスアクセスも充実してきています。また、道路アクセスについては、現在圏央道(首都圏中央自動車道)の整備が進められており、成田空港から北関東間の所要時間短縮が図られるだけでなく、都心渋滞回避や主要高速道との接続など道路アクセス機能が大幅に向上してきております。

三橋 それは便利になりますね。他にも成田空港の強み、将来ビジョンをお聞かせいただけますか。

夏目 最大の強みは36カ国3地域102都市とネットワークを結んでいることです。成田空港はアジアと北米を繋ぐ結節点に位置しており、太平洋線が約400万人、欧州線が約200万人、アジア・アフリカ線が約300万人にご利用いただくなど、非常にバランスの取れた豊富なネットワークが張られています。これは成田空港の35年の歴史が培ってきた財産であり、この国際ネットワークを今後更に拡充させて行く事が大事になります。そのためには空港機能を強化して“選ばれる空港”となることが我が国の将来への重要な役割であると自負しています。首都圏の旺盛かつ多様な航空ニーズに対応出来るマルチ・ファンクション・エアポートとして、「お客様から安心して信頼され、選ばれる魅力ある空港」を目指し、将来にわたって東アジアの国際拠点空港、ハブ空港としてゆるぎない地位を確立していくことを将来ビジョンと考えています。

観光振興にも貢献

夏目 現在日本の社会は少子高齢化、人口減少時代を迎えています。これからの日本経済の成長、日本の社会発展の政策の一環として“観光立国実現に向けた取り組み”が進められています。今年の訪日外国人旅客数(インバウンド)は、2013年6月では前年同月比約32%増、1～6月までの上半期で前年同期比約23%増となっており、また7月からは東南アジアのビザ解禁などの影響もあり、この推移でいけば1,000万人に到達するのではないかと言われています。成田空港としては、こうし



た政府の進める観光立国の実現を図る上でも、空港をご利用されるお客様の利便性・快適性を向上すべく、無料Wi-fiエリアの拡大によるインターネット環境の充実や、空港内の手続きの簡素化なども進めています。そして、観光立国実現に向けた国の掲げる目標達成に向け、関係機関とも緊密に連携し、積極的に取り組んでいきたいと思っています。

三橋 最後に夏目社長ご自身の旅と観光についてお話しいただけますか。

夏目 外国は非日常の世界、新しい未知の世界です。未体験の世界に触れ合えるということは非常に興味深いということで、海外へ行った回数はあまり多くないのですが、海外に行った際には機会があれば観光地に行きました。“百聞は一見に如かず”といつも思っています。日本の社会は物がなかった時代はともかく、近年のように豊かになってきたので、人は気持ちの充実、知的好奇心や心の満足度を満たすことが求められてくるようになってきたと思います。その点で、特に外国旅行は良いのではないのでしょうか。これからの時代は貴重な時間をどう有効に過ごすかが大事になってくると思います。時間の使い方を考えると海外旅行で貴重な時間を使える。これは益々大事になってくると思います。日本の経済がそこまで成長してきた現在、精神的に豊かな時代を皆が追い求めていくでしょうから、海外旅行、観光は益々活発になっていくと思っています。

是非添乗サービスも充実していただきたいですね。



東アジアのハブ空港として魅力有る“選ばれる空港”を目指してゆきたいと熱く語られる夏目社長の“将来ビジョン”に大きな期待を抱き空港を後にしました。

「ツアーコンダクターオブザイヤー2013」 受賞者決定

今年で8回目を迎えた「ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー」。7月に開催された選考委員会(委員長:吉村作治氏)において、栄えある受賞者が決定し、9月13日に開催された「JATA旅博」のステージEastにて表彰式が盛大に行われました。表彰式のあとは「添乗シンポジウム」も開催しました。

第8回 受賞者



グランプリ(国土交通大臣賞) **林 勝重さん**((株)JTB サポート中部所属)



昨年5月、「青蔵鉄道で行くチベット・ラサ」ツアー 3日目、高山病でお客様が体調不良を訴え、医者呼び点滴を施すも回復せず入院の準備をすることに。1時間後、容態が急変。当TCがとっさに人工呼吸・心臓マッサージを繰り返し、ガイドに救急車を呼んでもらい15分後に到着。その間、観光出発時間でロビーに集合しているお客様には「自身は病院に付き添うのでガイドのみで観光に出発する」旨を説明。その後部屋に戻ったがお客様は息を引き取っていた。その後、オペレーターと事後処理・公安の検死・日本との連絡・遺体の搬送・保険会社への連絡等通信状態が不完全な地域にもかかわらず適切な処理をした。

他のお客様については不安を与えぬようその方は現地で入院したということでツアーはそのまま継続し無事終了した。今回の事故を期に高山ツアーにおける所属会社社内としてのガイドラインが作成された。



準グランプリ(観光庁長官賞) **村松 政美さん**((株)ジャッツ所属)



日本旅行の募集型企画旅行の専属「女性添乗員」第1号。昨年度は業界全体として3.11からの影響から完全復帰とはなっていない状況の中、197日同社の看板コース「MACH」[BEST Excellent]に添乗。常にお客様の目線に立ち、派遣先担当者より多くの依頼を受けている。お客様アンケートの評価点も5段階評価で4.9点とズバ抜けた評価。旅行主催箇所から大変信頼されている。また日程や手配内容に関し旅行会社担当者に進言しツアー造成に積極的に関わった。語学力・交渉力を十分に兼ね備えたツアーコンダクター。



委員長賞 **加治 文子さん**((株)ツーリストエキスパート所属)



旅行主催会社から「日頃の添乗業務において常に顧客視点立ちホスピタリティを發揮し「感動計画」の推進に貢献した」として「ホスピタリティ表彰2012」を受賞。旅行会社主催の「ツアーコンダクターの集い」で「私の感動体験エピソード」を発表。また、昨年は72日間の座学講師を担当し22名のツアーコンダクターを育成した。



会長賞 **林 正実さん**(ANAセールス(株)所属)



昨年5月、海外ホームステイの学生に授業の一環として講義を行いTCに求められる素質や能力、体験談等熱弁をふるい添乗業務の魅力や未来ある学生に大いにアピールした。また、日本ミャンマー協会の訪ミャンマー投資環境調査ミッションにトータルコーディネーターとしてTCの魅力やアピール。継続的な指名や新規顧客の開拓で売上に貢献し、社内の顧客獲得キャンペーンでは30,000名中11番目だった。



会長特別賞 **坂口 実さん**((株)トップ・スタッフ所属)



袋田の滝観光添乗中に東日本大震災に遭遇、帰着困難の状況下湯西川に宿泊し無事翌日に帰京。的確な判断と旅行会社から評価を得た。これを機に数ヶ月松島、石巻、女川の復興ボランティア活動に従事。これらの経験を活かし福祉関連・ボランティアツアーの第一人者として2年間で8本の添乗依頼を受け好評を得た。風評被害に困っている地域へ添乗を通じてこの大震災が風化しないようお客様に自らのボランティア体験を含め説明を行っていることも評価が高い。まさにTCの社会貢献の一つの有り方として職業としての魅力作り、社会的地位の向上に貢献。

優秀賞

並木 彩さん ((株)ツーリストエキスパート所属)
橋間 邦仁さん ((株)ツーリストエキスパート所属)
望月 一久さん ((株)JTBサポートインターナショナル所属)

奨励賞

今井 博子さん ((株)ツーリストエキスパート所属)
勝野 弘子さん ((株)ツーリストエキスパート所属)
宮城 恵さん (沖縄ツーリスト(株)所属)
平井 隆司さん ((株)エスティエス所属)
河内 美恵子さん ((株)トップ・スタッフ所属)
三枝定一さん ((株)フォーラムジャパン)

現場の添乗員が、添乗現場で最近感じることやエピソードを自由に寄稿いただくコーナーです。

～添乗の現場から～ 第4回



初めてのモンゴル添乗

(株)ツリストサービス北海道 (添乗歴 30年 国内 2,758日 海外 2,600日)
 添乗員: 城守 昭裕さん 平成25年 北海道運輸局長表彰受賞

17年前、民主化間もないモンゴルチャーターでの添乗の時のこと、「あーああ、来た!来た!来た!」「え?どこ?」5分後、ピカッと光るもの。飛行機だ。視力が5.0とも言われる国民は見つけるのも早い。

機体はゴビ特有の砂漠の上を滑走し、一応それらしい滑走路は無視してそのまま行きたい方向に飛び立つ。乾燥していれば土の表面はコンクリートみたいでどこでも滑走路らしい。

泊まったホテルから半調理した食材と料理人同行。河原で火を入れ直してのピクニック風昼食。塩味だけの煮た羊肉が美味い。食事も終わりかけの頃、頭上で舞うトンビ達。食べ残しの骨を放り上げるとガシッと足

で抱え込み飛び去る。夕食が終わったら部屋の前で満点の星を見上げるしかないゲルホテルでのシンプルな時間。そろそろストーブに薪を入れなくては、8月だけだ…。

ツアーは変更ばかりだし、初めての国だしドキドキの連続でした。何とかなくなってしまったことにもびっくり。あれから17年も経っているのですがこのようなことはもうないかもしれません。1人旅をしていた頃のワクワクドキドキ感を無くさずに、その思いを伝えられたら。と思うのですがそうは上手く行かないのが現実で、これからもずっと課題です。

2000日添乗員の「コツ」奮闘記

連載 48

添乗員の独り言

(株)エステーエス 平成25年度 国土交通大臣表彰受賞
 平井 隆司さん 「ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー2013」奨励賞受賞



ツアー同行中、お客様によく「もう一度行ってみたい観光地はどこですか?」や「おすすめの宿泊施設はどこですか?」と尋ねられます。その時には私は逆にお客様に質問をします。「お客様の一番好きな観光地はどこですか?」と。

私はいつもお客様にアドバイスをします。「季節を変えてもう一度その場所に行ってみて下さい、新しい発見がそこにはきっとあるでしょう!」と。

綺麗な景色、そこに住んでいる人々との暖かなふれあい、日々仕事に追われて過ごしている現実の生活では味わえないであろう新しい感動がそこにはいっぱいあるでしょう。

以前、私の担当したツアーの中に外国から来られたお客様がおられました。広島と京都にお連れしたのですが一番心に残った場所を尋ねると、広島原爆ドームとのことでした。つまり古都京都の古い神社仏閣の外国にはない静かな落ち着いた佇まいの風景だと思っていました。人それぞれの心の中に残る風景の違いを改めて感じました。

添乗員はあくまでも“添え乗員”だと考えます。ツアーに参加の

お客様に一つでも多くの感動を持ち帰っていただき、これからの人生に大いにプラスになる幸せな思い出の1ページにしていたたくお手伝いをそばにいてサポートしているところです。

添乗員になって40年近くになりますが、未だ完璧なエスコートを成したという自覚はありません。日々失敗を重ねながらも勉強をしているところです。これからも周りのスタッフに支えられながら頑張っていきたいと思っております。感謝の言葉を一言添えて、これからもよろしく申し上げます。ありがとうございます、感謝します。



TCSA だより

大臣表彰

平成25年度国土交通大臣表彰に2名のツアーコンダクター及び
TCSA三橋専務理事が受賞されました!



写真左から(株)エスティーエス 平井さん(代理授与)、
TCSA三橋専務理事、(株)ジャッツ 岩崎所長(加藤さん(代理授与))

TCSAとしては2回目となる「国土交通大臣表彰」にツアーコンダクターとして、(株)エスティーエス 所属 平井隆司さん、(株)ジャッツ所属 加藤幸子さんのお二人が、また、業界団体役員としてTCSA 三橋専務理事が受賞されました。

ツアーコンダクターとしての大臣表彰は、過去に各地域の運輸局長表彰を受賞されている方で、
①ツアーコンダクターとして37年以上従事、②添乗経験通算日数が5,000日以上、③年齢55歳以上、
の方が申請の条件となっております。

該当する方がいらっしゃいましたら、TCSAまでご連絡下さい。

| | | | | |
|----------|----------------|--------------|-----|--------|
| ●大臣表彰受賞者 | (株)エスティーエス | 平井 隆司さん | 39年 | 6,108日 |
| | (株)ジャッツ | 加藤 幸子さん | 38年 | 5,115日 |
| | (一社)日本添乗サービス協会 | 専務理事 三橋 滋子 氏 | | |

平成25年度 運輸局長表彰

北海道運輸局は6/3に、近畿運輸局は8/2に8名のツアーコンダクターの方々の表彰式が行われました。

【北海道運輸局長表彰受賞者】

| | | | |
|---------|-------------------|-----|--------|
| 城守 昭裕さん | (株)ツーリストサービス北海道所属 | 29年 | 5,207日 |
| 島倉美恵子さん | (株)ツーリストサービス北海道所属 | 27年 | 4,530日 |
| 榎本 寿恵さん | (株)ツーリストサービス北海道所属 | 25年 | 3,523日 |

【近畿運輸局長表彰受賞者】

| | | | |
|---------|-----------------|-----|--------|
| 藪野 薫さん | (株)JTBサポートプラザ所属 | 26年 | 3,636日 |
| 古谷野綾子さん | (株)JTBサポートプラザ所属 | 25年 | 3,830日 |
| 関口久仁子さん | (株)JTBサポートプラザ所属 | 23年 | 3,385日 |
| 久田原裕子さん | (株)JTBサポートプラザ所属 | 26年 | 3,549日 |
| 三浦 成孔さん | (株)フォーラムジャパン 所属 | 21年 | 3,171日 |

平成25年度「添乗員能力資格認定試験」1月21日(火)に実施!

受験資格

- 1級は2年以上または200日以上添乗経験
- 2級は1年以上または100日以上添乗経験
- 3級は受験資格がないため、学生や一般の方も受験可能

1級認定者に発行する「認定バッジ」のデザイン募集!

当制度の最上ランクである「1級認定者」に対しバッジを贈呈することになりました。添乗時に襟元に付けることによってプロフェッショナルの証と誇れるような素敵なバッジを作りたいとの思いから広くデザインを募集することにいたしました。

【募集概要】

- ①デザイン、色は自由(但し、文字を入れる場合筆記体は不可)
- ②A4用紙に記入の上TCSA事務局に提出(紙でもデータでもOK。FAXは不可)
- ③応募締め切りは11月末日(応募の際、氏名、所属会社、住所、連絡先を明記)
- ④デザインを採用された応募者には賞金3万円を贈呈します。

会員動向

正会員

●代表者変更(順不同・敬称略 < >内は前任者)

株式会社ジャッツ関西

代表取締役社長 黒田 満之 <芦原 清己>

株式会社ジェイティビーサポート中部

代表取締役社長 櫻田 義一 <佐藤 康英>

●住所変更

株式会社ヒト・コミュニケーションズ 福岡支店

新住所:〒810-0001

福岡県福岡市中央区天神2-8-30 福岡天神第一生命ビル2階

新電話番号:092-791-2430

新FAX番号:092-791-2431

株式会社フォーラムジャパン

新住所:〒530-000

大阪府大阪市北区堂島2-2-2 近鉄堂島ビル17階

新電話番号:06-6454-2122

新FAX番号:06-6454-2144

株式会社TEI福岡支店

新住所:〒812-0011

福岡県福岡市博多区博多駅前4丁目1番1号

日本生命博多駅前第二ビル8階

新電話番号:092-686-8250 新FAX番号:092-686-8251

委員委嘱変え

(敬称略 < >内は前任者)

●研修委員会

(株)ティーシーエイ 南方宏之 <堤 隆>

(((編集後記)))

新体制でスタートした協会が初めて発行したTCSA NEWSの紙面構成・内容等について、皆さまからのコメントをお待ちしています(S.M)。

一般社団法人 日本添乗サービス協会

〒105-0014 東京都港区芝1-10-11 コスモ金杉橋ビル6階

TEL(03)6435-1508・FAX(03)6435-1509

E-mail tcsa@tcsa.or.jp

URL http://www.tcsa.or.jp/